



SU ~ SZ

- [subject-name \(クリプト CA 証明書マップ\)](#) (3 ページ)
- [subject-name \(暗号 CA トラストポイント\)](#) (5 ページ)
- [subject-name-default](#) (7 ページ)
- [subnet](#) (9 ページ)
- [summary-address \(インターフェイス\)](#) (12 ページ)
- [summary-prefix \(IPv6 ルータ OSPF\)](#) (14 ページ)
- [summary-address \(ルータ ISIS\)](#) (16 ページ)
- [summary-address \(ルータ OSPF\)](#) (21 ページ)
- [sunrpc-server](#) (23 ページ)
- [support-user-cert-validation](#) (25 ページ)
- [sw-module module password-reset](#) (27 ページ)
- [sw-module module recover](#) (29 ページ)
- [sw-module module reload](#) (32 ページ)
- [sw-module module reset](#) (34 ページ)
- [sw-module module shutdown](#) (36 ページ)
- [sw-module module uninstall](#) (38 ページ)
- [switchport access vlan](#) (40 ページ)
- [switchport](#) (43 ページ)
- [switchport mode](#) (45 ページ)
- [switchport monitor](#) (47 ページ)
- [switchport protected](#) (49 ページ)
- [switchport trunk](#) (51 ページ)
- [synack-data](#) (55 ページ)
- [synchronization](#) (57 ページ)
- [syn-data](#) (59 ページ)
- [sysopt connection permit-vpn](#) (61 ページ)
- [sysopt connection preserve-vpn-flows](#) (63 ページ)
- [sysopt connection reclassify-vpn](#) (65 ページ)
- [sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg](#) (67 ページ)

- [sysopt connection tcpmss](#) (68 ページ)
- [sysopt connection timewait](#) (71 ページ)
- [sysopt noproxyarp](#) (73 ページ)
- [sysopt radius ignore-secret](#) (75 ページ)
- [sysopt traffic detailed-statistics](#) (77 ページ)

subject-name (クリプト CA 証明書マップ)

IPsec ピア証明書のサブジェクト DN にルールエントリが適用されることを指定するには、クリプト CA 証明書マップ コンフィギュレーションモードで **subject-name** コマンドを使用します。サブジェクト名を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

subject-name [**attr tag eq | ne | co | nc string**]

no subject-name [**attr tag eq | ne | co | nc string**]

構文の説明

attr tag 証明書 DN の指定された属性値のみがルール エントリ スtring と比較されることを指定します。タグ値は次のとおりです。

DNQ = DN 修飾子 GENQ = 世代修飾子 I = イニシャル GN = 名 N = 名前 SN = 姓 IP = IP アドレス SER = シリアル番号 UNAME = 非構造化名 EA = 電子メール アドレス T = 役職 O = 組織名 L = 地名 SP = 州または都道府県 C = 国または地域 OU = 組織ユニット CN = 通常名

co ルール エントリ スtring が DN スtring または指定された属性のサブスString である必要があることを指定します。

eq DN スtring または指定された属性がルール スtring 全体と一致する必要があることを指定します。

nc ルール エントリ スtring が DN スtring または指定された属性のサブスString でないことが必要であることを指定します。

ne DN スtring または指定された属性がルール スtring 全体と一致しないことが必要であることを指定します。

string 照合される値を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
クリプト CA 証明書マップ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

例

次に、証明書マップ 1 に対して CA 証明書マップ コンフィギュレーション モードを開始して、証明書サブジェクト名の組織属性が Central と等しくなる必要があることを指定するルール エントリを作成する例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca certificate map 1
ciscoasa(ca-certificate-map)# subject-name attr o eq central
ciscoasa(ca-certificate-map)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca certificate map	CA 証明書マップ コンフィギュレーション モードを開始します。
issuer-name	ルールエントリ文字列との比較対象となる、CA 証明書に含まれている DN を指定します。
tunnel-group-map	crypto ca certificate map コマンドを使用して作成された証明書マップトンネルをトンネルグループに関連付けます。

subject-name (暗号 CA トラストポイント)

指定したサブジェクト DN を登録時に証明書に含めるには、クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーションモードで **subject-name** コマンドを使用します。これは、証明書を使用する人またはシステムです。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

subject-name *X.500_name*

no subject-name

構文の説明

X.500_name X.500 認定者名を定義します。属性と値のペアを区切るには、カンマを使用します。カンマやスペースを含む値は、引用符で囲みます。たとえば、**cn=crl,ou=certs,o="cisco systems, inc.",c=US** です。最大長は 500 文字です。

コマンドデフォルト

デフォルト設定では、サブジェクト名は含まれません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

例

次に、トラストポイント **central** のクリプト CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを開始して、URL <https://frog.example.com> での自動登録を設定し、サブジェクト DN OU certs をトラストポイント **central** の登録要求に含める例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca trustpoint central
ciscoasa(ca-trustpoint)# enrollment url http://frog.example.com/
ciscoasa(ca-trustpoint)# subject-name ou=certs
ciscoasa(ca-trustpoint)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca trustpoint	トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
default enrollment	登録パラメータをデフォルト値に戻します。
enrollment url	CA に対する登録用の URL を指定します。

subject-name-default

ローカル CA サーバーが発行するすべてのユーザー証明書でユーザー名に追加される一般的なサブジェクト名認定者名 (DN) を指定するには、CA サーバー コンフィギュレーション モードで **subject-name-default** コマンドを使用します。サブジェクト名 DN をデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

subject-name-default dn
no subject-name-default

構文の説明

dn ローカル CA サーバーが発行するすべてのユーザー証明書でユーザー名に含める一般的なサブジェクト名 DN を指定します。サポートされている DN 属性は、**cn** (一般名)、**ou** (組織ユニット)、**ol** (組織の地名)、**st** (州)、**ea** (電子メールアドレス)、**c** (会社)、**t** (タイトル)、および **sn** (姓名の姓) です。属性と値のペアを区切るには、カンマを使用します。カンマを含む値は、引用符で囲んでください。**dn** に使用できる文字数は最大 500 文字です。

コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトのコンフィギュレーションの一部ではありません。このコマンドでは、証明書のデフォルトの DN を指定します。ユーザー入力に DN がある場合、このコマンドは ASA によって無視されます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
CA サーバー コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

subject-name-default コマンドでは、発行される証明書のサブジェクト名を構成するユーザー名で使用される、共通の一般的な DN を指定します。この目的には、**dn** 値は **cn=username** で十分です。このコマンドによって、ユーザーごとに個別にサブジェクト名 DN を定義する必要がなくなります。**crypto ca server user-db add dn dn** コマンドを使用してユーザーが追加される場合、DN フィールドは任意です。

ASAでは、このコマンドは、ユーザー入力でDNが指定されない場合に、証明書を発行するときのみ使用されます。

例

次に、DN を指定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca server
ciscoasa
(config-ca-server)
# subject-name-default cn=cisco,cn=example_corp,ou=eng,st=ma, c="cisco systems, inc."
ciscoasa
(config-ca-server)
#
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca server	CA サーバー コンフィギュレーション モードの CLI コマンドセットにアクセスできるようにします。これらのコマンドを使用することで、ローカルCAを設定および管理できます。
issuer-name	認証局証明書のサブジェクト名 DN を指定します。
keysize	ユーザー証明書登録で生成される公開キーと秘密キーのサイズを指定します。
lifetime	CA 証明書、発行済みの証明書、または CRL のライフタイムを指定します。

subnet

ネットワークオブジェクトまたはネットワークサービスオブジェクトのネットワークを設定するには、オブジェクトコンフィギュレーションモードで **subnet** コマンドを使用します。コンフィギュレーションからオブジェクトを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
subnet { IPv4_address IPv4_mask / IPv6_address/IPv6_prefix } [ service ]
no subnet { IPv4_address IPv4_mask / IPv6_address/IPv6_prefix } [ service ]
```

構文の説明

IPv4_address IPv4_mask IPv4 ネットワークアドレスとサブネットマスクを、スペースで区切って指定します。

IPv6_address/IPv6_prefix IPv6 ネットワークアドレスとプレフィックス長を、/記号で区切って指定します。スペースは使用しません。

service (オプション: ネットワークサービス オブジェクトのみ) 一致する接続の範囲を制限する場合にのみ、サービスを指定します。デフォルトでは、解決済みの IP アドレスへのすべての接続がオブジェクトと一致します。

protocol [operator port]

引数の説明

- *protocol* は、tcp、udp、ip など、接続で使用されるプロトコルです。プロトコルのリストを確認するには ? を使用します。
- (TCP/UDP のみ) *operator* は次のいずれかです。
 - **eq** は、指定したポート番号と等しいポートを意味します。
 - **lt** は、指定したポート番号より小さい任意のポートを意味します。
 - **gt** は、指定したポート番号より大きい任意のポートを意味します。
 - **range** は、指定した 2 つのポートの間の任意のポートを意味します。
- (TCP/UDP のみ) *port* は 1 ~ 65535 のポート番号か www などのニーモニックです。ニーモニックを確認するには ? を使用します。範囲の場合は 2 つのポートを指定する必要があります。最初のポートを 2 番目のポートよりも小さい番号にします。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
オブジェクトネットワークコンフィギュレーションまたはネットワークサービスコンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容

8.3(1) このコマンドが追加されました。

9.17(1) ネットワークサービス オブジェクトのサポートと *service* キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

既存のオブジェクトを異なる IP アドレスを使用して設定すると、新しいコンフィギュレーションが既存のコンフィギュレーションに置き換わります。

例

次に、サブネット ネットワーク オブジェクトを作成する例を示します。

```
ciscoasa(config)# object network OBJECT_SUBNET
ciscoasa(config-network-object)# subnet 10.1.1.0 255.255.255.0
```

次に、HTTPS トラフィックのサブネット ネットワークサービス オブジェクトを作成する例を示します。

```
ciscoasa(config)# object network-service partner-web
ciscoasa(config-ns)# subnet 10.100.10.0 255.255.255.0 tcp eq 443
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure object	作成されたすべてのオブジェクトをクリアします。
description	ネットワーク オブジェクトに説明を追加します。
fqdn	完全修飾ドメイン名のネットワーク オブジェクトを指定します。

コマンド	説明
host	ホスト ネットワーク オブジェクトを指定します。
nat	ネットワーク オブジェクトの NAT をイネーブルにします。
object network	ネットワーク オブジェクトを作成します。
object network-service	ネットワークサービス オブジェクトを作成します。
object-group network	ネットワーク オブジェクト グループを作成します。
object-group network-service	ネットワークサービスオブジェクトグループを作成します。
range	ネットワーク オブジェクトのアドレス範囲を指定します。
show running-config object network	ネットワーク オブジェクト コンフィギュレーションを表示します。

summary-address (インターフェイス)

特定のインターフェイスのEIGRPのサマリーを設定するには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **summary-address** コマンドを使用します。サマリーアドレスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

summary-address *as-number addr mask [admin-distance]*

no summary-address *as-number addr mask*

構文の説明

<i>as-number</i>	自律システム番号。これは、EIGRPルーティングプロセスの自律システム番号と同じである必要があります。
<i>addr</i>	サマリー IP アドレス。
<i>mask</i>	IP アドレスに適用されるサブネットマスク。
<i>admin-distance</i>	(任意) 集約ルートのアドミニストレーティブ ディスタンス。有効な値は、0 ~ 255 です。指定されていない場合、デフォルト値は 5 です。

コマンド デフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- EIGRP は、単一のホストルートの場合でも、ルートをネットワーク レベルに自動的に集約します。
- EIGRP 集約ルートのアドミニストレーティブ ディスタンスは 5 です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチ コンテキスト モードはサポートされます。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、EIGRP はサブネットルートをネットワーク レベルに集約します。自動ルート集約をディセーブルにするには、**no auto-summary** コマンドを使用します。**summary-address** コマンドを使用すると、サブネットルート集約をインターフェイス単位で手動で定義できます。

例

次の例では、**tag** を 3 に設定してルート集約を設定しています。

```
ciscoasa(config-if)# summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0
ciscoasa(config-if)#
```

次の例に、**no** 形式の **summary-address** コマンドをオプションとともに使用して、オプションをデフォルト値に戻す方法を示します。この例では、先の例で 3 に設定された **tag** 値が、**summary-address** コマンドから削除されます。

```
ciscoasa(config-if)# no summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0
ciscoasa(config-if)#
```

次の例では、設定から **summary-address** コマンドを削除します。

```
ciscoasa(config-if)# no summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0
ciscoasa(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
auto-summary	EIGRP ルーティングプロセスのサマリーアドレスを自動的に作成します。

summary-prefix (IPv6 ルータ OSPF)

IPv6 サマリープレフィックスを設定するには、IPv6 ルータ OSPF コンフィギュレーションモードで **summary-prefix** コマンドを使用します。デフォルトに戻す場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
summary-prefix prefix [ not-advertise ] [ tag tag_value ]
no summary-prefix prefix [ not-advertise ] [ tag tag_value ]
```

構文の説明

not-advertise (オプション) 指定されたプレフィックスとマスクのペアに一致するルートを抑制します。このキーワードは OSPFv3 だけに適用されます。

prefix 宛先の IPv6 プレフィックスを指定します。

tag (オプション) ルート マップを使用して再配布を制御する **match** 値として使用できるタグ値を指定します。このキーワードは OSPFv3 だけに適用されます。

コマンド デフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- **tag_value** は 0 です。
- 指定されたプレフィックスとマスクのペアに一致するルートは抑制されません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
IPv6 ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

9.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、IPv6 サマリープレフィックスを設定します。

例

次の例では、サマリープレフィックス FECO::

```
ciscoasa(config-if)# ipv6 router ospf 1
ciscoasa(config-router)# router-id 172.16.3.3
ciscoasa(config-router)# summary-prefix FECO::/24
ciscoasa(config-router)# redistribute static
```

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 router ospf	OSPFv3 のルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
redistribute	ある OSPFv3 ルーティング ドメインから別の OSPFv3 ルーティング ドメインへ IPv6 ルートを再配布します。

summary-address (ルータ ISIS)

IS-IS の集約アドレスを作成するには、ルータ ISIS コンフィギュレーション モードで **summary-address** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
summary-address address mask [ level-1 | level-1-2 | level-2 ] [ tag tag-number ] [ metric metric-value ]
no summary-address address mask [ level-1 | level-1-2 | level-2 ] [ tag tag-number ] [ metric metric-value ]
```

構文の説明

level-1	(オプション) 設定済みアドレスとマスク値を使用して、レベル1に再配布されたルートのみが集約されます。
level-1-2	(オプション) ルートをレベル1およびレベル2 IS-ISに再配布するとき、およびレベル2 IS-IS がレベル1 をエリアで到達可能なものとしてアドバタイズしたときにサマリールートが適用されます。
level-2	(オプション) 設定済みアドレスとマスク値を使用して、レベル1ルーティングが学習したルートはレベル2バックボーンに集約されます。レベル2の IS-IS に再配布されたルートもサマライズされます。
address	アドレスの範囲を表すために指定するサマリーアドレス。
mask	サマリー ルートに使用される IP サブネット マスク。
tag tag-number	(オプション) サマリールートにタグを付けるために使用される整数を指定します。
metric metric-value	(オプション) サマリールートに適用されるメトリック値を指定します。

コマンド デフォルト

すべてのルートは個別にアドバタイズされます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ルータ isis コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

9.6(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

複数のアドレス グループを特定のレベルに集約できます。他のルーティング プロトコルから学習したルートも集約できます。サマリーのアドバタイズに使用されるメトリックは、具体的なルートすべての中で最小のメトリックです。このコマンドは、ルーティングテーブルの容量縮小に有効です。

リンクステート パケット (LSP) とリンクステート データベース (LSDB) のサイズも小さくします。また、要約アドバタイズメントは多くの特定ルートによって異なるので、ネットワークの安定にも役立ちます。たいていの場合、1つのルートフラップが原因で要約アドバタイズメントはフラップしません。

サマリーアドレスを使用する場合の欠点は、他のルートには、個々の宛先すべてに最適なルーティング テーブルを計算するための情報が少なくなることです。

例

次に、IS-IS に Routing Information Protocol (RIP) ルートを再配布する例を示します。RIP ネットワークでは、10.1.1、10.1.2、10.1.3、10.1.4 のような IP ルートがあります次に、10.1.0.0 のみを IS-IS レベル 1 リンクステート プロトコル データ ユニット (PDU) にアドバタイズする例を示します。サマリー アドレスに 100 のタグが付けられ、110 のメトリック値が指定されます。

```
ciscoasa(config)# router isis
ciscoasa(config-router)# net 01.0000.0000.0001.00
ciscoasa(config-router)# redistribute rip level-1 metric 40
ciscoasa(config-router)# summary-address 10.1.0.0 255.255.0.0 tag 100 metric 110
```

関連コマンド

コマンド	説明
advertise passive-only	パッシブ インターフェイスをアドバタイズするように ASA を設定します。
area-password	IS-IS エリア認証パスワードを設定します。
authentication key	IS-IS の認証をグローバルで有効にします。
authentication mode	グローバルな IS-IS インスタンスに対して IS-IS パケットで使用される認証モードのタイプを指定します。
authentication send-only	グローバルな IS-IS インスタンスでは、送信される（受信ではなく）IS-IS パケットでのみ認証が実行されるように設定します。
clear isis	IS-IS データ構造をクリアします。
default-information originate	IS-IS ルーティング ドメインへのデフォルト ルートを生成します。

コマンド	説明
distance	IS-IS プロトコルにより発見されたルートに割り当てられるアドミニストレーティブ ディスタンスを定義します。
domain-password	IS-IS ドメイン認証パスワードを設定します。
fast-flood	IS-IS LSP がフルになるように設定します。
hello padding	IS-IS hello をフル MTU サイズに設定します。
hostname dynamic	IS-IS ダイナミック ホスト名機能を有効にします。
ignore-lsp-errors	内部チェックサムエラーのある IS-IS LSP を受信した場合に LSP をパージするのではなく無視するように ASA を設定します。
isis adjacency-filter	IS-IS 隣接関係の確立をフィルタ処理します。
isis advertise-prefix	IS-IS インターフェイスで、LSP アドバタイズメントを使用して接続中のネットワークの IS-IS プレフィックスをアドバタイズします。
isis authentication key	インターフェイスに対する認証を有効にします。
isis authentication mode	インターフェイスごとに、インスタンスに対して IS-IS パケットで使用される認証モードのタイプを指定します。
isis authentication send-only	送信される（受信ではなく）IS-IS パケットに対してのみ認証を実行するように、インターフェイスごとの IS-IS インスタンスを設定します。
isis circuit-type	IS-IS で使用される隣接関係のタイプを設定します。
isis csnp-interval	ブロードキャスト インターフェイス上で定期的に CSNP パケットが送信される間隔を設定します。
isis hello-interval	IS-IS が連続して hello パケットを送信する時間の長さを指定します。
isis hello-multiplier	ネイバーが見落とすことができる IS-IS hello パケット数の最大値を指定します。見落とされたパケット数がこの値を超えると、ASA は隣接がダウンしていると宣言します。
isis hello padding	IS-IS hello をインターフェイスごとのフル MTU サイズに設定します。
isis lsp-interval	インターフェイスごとの連続する IS-IS LSP 送信間の遅延時間を設定します。
isis metric	IS-IS メトリックの値を設定します。

コマンド	説明
isis password	インターフェイスの認証パスワードを設定します。
isis priority	インターフェイスでの指定された ASA のプライオリティを設定します。
isis protocol shutdown	インターフェイスごとに IS-IS プロトコルを無効にします。
isis retransmit-interval	インターフェイス上の各 IS-IS LSP の再送信間の時間を設定します。
isis retransmit-throttle-interval	インターフェイス上の各 IS-IS LSP の再送信間の時間を設定します。
isis tag	IP プレフィックスが LSP に挿入されたときに、インターフェイスに設定された IP アドレスにタグを設定します。
is-type	IS-IS ルーティング プロセスのルーティング レベルを割り当てます。
log-adjacency-changes	NLSP IS-IS 隣接関係がステートを変更 (アップまたはダウン) する際に、ASA がログメッセージを生成できるようにします。
lsp-full suppress	PDU がフルになったときに、抑制されるルートを設定します。
lsp-gen-interval	LSP 生成の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。
lsp-refresh-interval	LSP の更新間隔を設定します。
max-area-addresses	IS-IS エリアの追加の手動アドレスを設定します。
max-lsp-lifetime	LSP が更新されずに ASA のデータベース内で保持される最大時間を設定します。
maximum-paths	IS-IS のマルチパス ロードシェアリングを設定します。
metric	すべての IS-IS インターフェイスのメトリック値をグローバルに変更します。
metric-style	新規スタイル、長さ、および値オブジェクト (TLV) を生成し、TLV のみを受け入れるように、IS-IS を稼働している ASA を設定します。
net	ルーティング プロセスの NET を指定します。
passive-interface	パッシブ インターフェイスを設定します。
prc-interval	PRC の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。

コマンド	説明
protocol shutdown	インターフェイス上で隣接関係を形成して LSP データベースをクリアすることができないように、IS-IS プロトコルをグローバルで無効にします。
redistribute isis	特にレベル1からレベル2へ、またはレベル2からレベル1へ、IS-IS ルートを再配布します。
route priority high	IS-IS IP プレフィックスにハイプライオリティを割り当てます。
router isis	IS-IS ルーティングをイネーブルにします。
set-attached-bit	レベル1とレベル2間のルータが Attach ビットを設定する必要がある場合の制約を指定します。
set-overload-bit	SPF 計算の中間ホップとして使用できないことを他のルータに通知するように ASA を設定します。
show clns	CLNS 固有の情報を表示します。
show isis	IS-IS の情報を表示します。
show route isis	IS-IS ルートを表示します。
spf-interval	SPF 計算の IS-IS スロットリングをカスタマイズします。
summary-address	IS-IS の集約アドレスを作成します。

summary-address (ルータ OSPF)

OSPF の集約アドレスを作成するには、ルータ OSPF コンフィギュレーション モードで **summary-address** コマンドを使用します。サマリーアドレスまたは特定のサマリーアドレスオプションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
summary-address addr mask [ not-advertise ] [ tag tag_value ]
no summary-address addr mask [ not-advertise ] [ tag tag_value ]
```

構文の説明

addr	アドレス範囲に対して指定されるサマリー アドレスの値。
mask	集約ルートに対して使用される IP サブネット マスク。
not-advertise	(任意) 指定されたプレフィックス/マスク ペアと一致するルートを抑制します。
tag tag_value	(任意) 各外部ルートに付けられた 32 ビットの 10 進値。この値は OSPF 自体には使用されません。ASBR 間での情報通信に使用されることはあります。何も指定しない場合、BGP および EGP からのルートにはリモート自律システムの番号が使用され、その他のプロトコルには 0 が使用されます。有効値の範囲は、0 ~ 4294967295 です。

コマンドデフォルト

デフォルトの設定は次のとおりです。

- **tag_value** は 0 です。
- 指定されたプレフィックス/マスク ペアと一致するルートは抑制されません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
ルータ コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。
9.0(1)	マルチコンテキストモードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

他のルーティングプロトコルから学習したルートをサマライズできます。このコマンドを OSPF に対して使用すると、OSPF 自律システム境界ルータ (ASBR) により、このアドレスの対象となる再配布されるすべてのルートの集約として、1 つの外部ルートがアドバタイズされます。このコマンドでは、OSPF に再配布されている、他のルーティングプロトコルからのルートのみが集約されます。OSPF エリア間のルート集約には **area range** コマンドを使用します。

summary-address コマンドをコンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を、任意のキーワードまたは引数を指定しないで使用します。コンフィギュレーションの **summary** コマンドからオプションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用して、削除するオプションを指定します。詳細については、「例」を参照してください。

例

次の例では、**tag** を 3 に設定してルート集約を設定しています。

```
ciscoasa(config-router)# summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0 tag 3
ciscoasa(config-router)#
```

次の例に、**no** 形式の **summary-address** コマンドをオプションとともに使用して、オプションをデフォルト値に戻す方法を示します。この例では、先の例で 3 に設定された **tag** 値が、**summary-address** コマンドから削除されます。

```
ciscoasa(config-router)# no summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0 tag 3
ciscoasa(config-router)#
```

次の例では、設定から **summary-address** コマンドを削除します。

```
ciscoasa(config-router)# no summary-address 1.1.0.0 255.255.0.0
ciscoasa(config-router)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
area range	エリア境界でルートを統合および集約します。
router ospf	ルータ コンフィギュレーション モードを開始します。
show ospf summary-address	各 OSPF ルーティングプロセスのサマリーアドレス設定を表示します。

sunrpc-server

SunRPC サービステーブルのエントリを作成するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sunrpc-server** コマンドを使用します。SunRPC サービステーブルのエントリをコンフィギュレーションから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```

sunrpc-server ifc_name ip_addr mask service service_type protocol [ tcp | udp ] port port [ -port ]
timeout hh:mm:ss
no sunrpc-server ifc_name ip_addr mask service service_type protocol [ tcp | udp ] port port [ -port ]
timeout hh:mm:ss
no sunrpc-server service_type server ip_addr
    
```

構文の説明

<i>ifc_name</i>	サーバー インターフェイス名。
<i>ip_addr</i>	SunRPC サーバーの IP アドレス。
<i>mask</i>	ネットワーク マスク。
<i>port port [-port]</i>	SunRPC プロトコルのポート範囲を指定します。
<i>port-port</i>	(任意) SunRPC プロトコルのポート範囲を指定します。
protocol tcp	SunRPC トランスポート プロトコルを指定します。
protocol udp	SunRPC トランスポート プロトコルを指定します。
<i>service</i>	サービスを指定します。
<i>service_type</i>	sunrpcinfo コマンドで指定した SunRPC サービスプログラム番号を設定します。
<i>timeout hh:mm:ss</i>	SunRPC サービス トラフィックへのアクセスが終了するまでのタイムアウト アイドル時間を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース	変更内容
7.0(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SunRPC サービステーブルは、`timeout` で指定された時間、確立された SunRPC セッションに基づいて、SunRPC トラフィックが ASA を通過するのを許可するために使用します。

例

次に、SunRPC サービス テーブルを作成する例を示します。

```
ciscoasa(config)# sunrpc-server outside 10.0.0.1 255.0.0.0 service 100003 protocol TCP
port 111 timeout 0:11:00
ciscoasa(config)# sunrpc-server outside 10.0.0.1 255.0.0.0 service 100005 protocol TCP
port 111 timeout 0:11:00
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sunrpc-server	ASA からの Sun リモートプロセッサ コール サービスをクリアします。
show running-config sunrpc-server	SunRPC コンフィギュレーションに関する情報を表示します。

support-user-cert-validation

現在のトラストポイントが、リモートユーザー証明書を発行した CA に対して認証されている場合に、このトラストポイントに基づいてリモート証明書を検証するには、クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーションモードで **support-user-cert-validation** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

support-user-cert-validation
no support-user-cert-validation

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルト設定では、ユーザー証明書の検証がサポートされています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
クリプト CA トラストポイント コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ASA では、同じ CA に対して 2 つのトラストポイントを保持できます。この場合は、同じ CA から 2 つの異なるアイデンティティ証明書が発行されます。トラストポイントが、この機能をイネーブルにしている別のトラストポイントにすでに関連付けられている CA に対して認証される場合、このオプションは自動的にディセーブルになります。これにより、パス検証パラメータの選択であいまいさが生じないようにになります。ユーザーが、この機能をイネーブルにした別のトラストポイントにすでに関連付けられている CA に認証されたトラストポイントでこの機能を有効化しようとした場合、アクションは許可されません。2 つのトラストポイント上でこの設定をイネーブルにして、同じ CA の認証を受けることはできません。

例

次に、トラストポイント **central** のクリプト CA トラストポイント コンフィギュレーションモードを開始して、トラストポイント **central** でユーザー検証を受け入れることができるようにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# crypto ca trustpoint central  
ciscoasa(ca-trustpoint)# support-user-cert-validation  
ciscoasa(ca-trustpoint)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
crypto ca trustpoint	トラストポイントコンフィギュレーションモードを開始します。
default enrollment	登録パラメータをデフォルト値に戻します。

sw-module module password-reset

ソフトウェアモジュールのパスワードをデフォルト値にリセットするには、特権EXECモードで **sw-module module password-reset** コマンドを使用します。

sw-module module *id* password-reset

構文の説明

id **cxsc** または **ips** のいずれかのモジュール ID を指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.6(1) このコマンドが追加されました。

9.1(1) **cxsc** キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

パスワードをリセットした後は、モジュールアプリケーションを使用してパスワードを独自の値に変更する必要があります。モジュールのパスワードをリセットすると、モジュールがリブートします。モジュールのリブート中はサービスを使用できません。リブートには数分を要する場合があります。**show module** コマンドを実行すると、モジュールの状態をモニターできます。

コマンドは、必ずプロンプトで確認を要求します。コマンドが成功した場合は、それ以上何も出力されません。コマンドが失敗した場合は、障害が発生した理由を示すエラーメッセージが表示されます。

このコマンドは、モジュールがアップ状態である場合にのみ有効です。

デフォルトのパスワードはモジュールによって異なります。

- ASA IPS : ユーザー **cisco** のデフォルトのパスワードは、**cisco** です。
- ASA CX : ユーザー **admin** のデフォルトのパスワードは、**Admin123** です。

例

次に、IPS モジュール上のパスワードをリセットする例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips password-reset
Reset the password on module ips? [confirm] y
```

関連コマンド

コマンド	説明
sw-module module recover	ディスクから回復イメージをロードして、モジュールを回復します。
sw-module module reload	モジュール ソフトウェアをリロードします。
sw-module module reset	モジュールをシャットダウンし、リロードします。
sw-module module shutdown	コンフィギュレーション データを失わずに電源を切る準備をして、モジュール ソフトウェアをシャットダウンします。
show module	モジュール情報を表示します。

sw-module module recover

ソフトウェアモジュールのリカバリ用ソフトウェアイメージをディスクからロードする場合、またはイメージの場所を設定する場合は、特権 EXEC モードで **sw-module module recover** コマンドを使用します。たとえば、モジュールが現在のイメージをロードできない場合などに、このコマンドを使用してモジュールを回復することが必要になることがあります。

sw-module module ID recover { boot | stop | configure image path }

構文の説明

<i>id</i>	次のいずれかのモジュール ID を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • sfr : ASA FirePOWER モジュール。 • ips : IPS モジュール • cxsc : ASA CX モジュール
boot	このモジュールの回復を開始し、 configure 設定に従って回復イメージをダウンロードします。ダウンロード後、モジュールは新しいイメージからリポートします。
configure image path	ローカルディスク上の新しいイメージの場所を設定します（例：disk0:image2）。
stop	リカバリ アクションを停止し、モジュールのイメージファイルを削除します。このコマンドは、 sw-module module id recover boot コマンドを使用して回復を開始してから 30 秒以内に入力する必要があります。この期間が経過した後で stop コマンドを入力すると、モジュールが無応答になるなど、予期しない結果になることがあります。 すでにモジュールが無応答になっている場合、リポートしたり新しいイメージを適用したりするには、停止する必要が生じることがあります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴	リリース	変更内容
	8.6(1)	このコマンドが追加されました。
	9.1(1)	cxsc キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。
	9.2(1)	sfr キーワードを使用する ASA FirePOWER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ソフトウェア モジュールをインストールします。このモジュールは、デバイスで設定されていない新しいモジュールである場合と、障害が発生したために再インストールが必要となった既存のモジュールである場合があります。

イメージをインストールする場合は、次のコマンドシーケンスを使用します。

- **sw-module module *id* configure image *path*** (ソフトウェア モジュール イメージの *disk0* 上の場所を指定)。
- **sw-module module *id* boot** (該当イメージをブート)。

イメージのブートは、モジュールがアップ、ダウン、無応答、または回復のいずれかの状態である場合にのみ可能です。ステート情報については、**show module** コマンドを参照してください。モジュールがアップ状態でない場合、ASA は強制的にモジュールをシャットダウンします。強制シャットダウンでは、すべてのコンフィギュレーションを含む、古いモジュールディスク イメージが破壊されます。このため、ディザスタ リカバリ メカニズムとしてのみ使用してください。

show module *id* recover コマンドを使用してリカバリ コンフィギュレーションを表示できます。



- (注) IPS モジュールの場合、モジュールソフトウェア内部では、イメージをインストールするために **upgrade** コマンドを使用しないでください。モジュールのインストールおよび初期設定を完了する方法については、各ソフトウェアモジュールの CLI コンフィギュレーション ガイドを参照してください。

例

次に、*disk0:image2* からイメージをダウンロードするようにモジュールを設定する例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips recover configure image disk0:image2
```

次に、モジュールを回復する例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips recover boot
The module in slot ips will be recovered. This may
erase all configuration and all data on that device and
```

```
attempt to download a new image for it.  
Recover module in slot ips? [confirm]
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug module-boot	モジュールのブートプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
sw-module module reset	モジュールをシャットダウンし、リセットを実行します。
sw-module module reload	モジュールソフトウェアをリロードします。
sw-module module shutdown	コンフィギュレーションデータを失わずに電源を切る準備をして、モジュールソフトウェアをシャットダウンします。
show module	モジュール情報を表示します。

sw-module module reload

ソフトウェアモジュールのモジュールソフトウェアをリロードするには、特権EXECモードで **sw-module module reload** コマンドを使用します。

sw-module module *id* reload

構文の説明

id 次のいずれかのモジュールIDを指定します。

- **sfr** : ASA FirePOWER モジュール。
- **ips** : IPS モジュール
- **cxsc** : ASA CX モジュール

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.6(1) このコマンドが追加されました。

9.1(1) **cxsc** キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。

9.2(1) **sfr** キーワードを使用する ASA FirePOWER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、モジュールをリロードする前にリセットを実行する **sw-module module reset** コマンドとは異なります。

このコマンドは、モジュールのステータスがアップ状態にある場合だけ有効です。ステータ情報については、**show module** コマンドを参照してください。

例

次に、IPS モジュールをリロードする例を示します。


```
ciscoasa# sw-module module ips reload
Reload module in slot ips? [confirm] y
Reload issued for module in slot ips
%XXX-5-505002: Module in slot ips is reloading. Please wait...
%XXX-5-505006: Module in slot ips is Up.
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug module-boot	モジュールのブートプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
sw-module module recover	ディスクから回復イメージをロードして、モジュールを回復します。
sw-module module reset	モジュールをシャットダウンし、リセットを実行します。
sw-module module shutdown	コンフィギュレーションデータを失わずに電源を切る準備をして、モジュールソフトウェアをシャットダウンします。
show module	モジュール情報を表示します。

sw-module module reset

モジュールをリセットしてからモジュールソフトウェアをリロードするには、特権 EXEC モードで **sw-module module reset** コマンドを使用します。

sw-module module *id* reset

構文の説明

id 次のいずれかのモジュール ID を指定します。

- **sfr** : ASA FirePOWER モジュール。
- **ips** : IPS モジュール
- **cxsc** : ASA CX モジュール

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.6(1) このコマンドが追加されました。

9.1(1) **cxsc** キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。

9.2(1) **sfr** キーワードを使用する ASA FirePOWER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

モジュールがアップ状態の場合、**sw-module module reset** コマンドによって、リセットの前にソフトウェアをシャットダウンするように要求されます。

sw-module module recover コマンドを使用してモジュールを回復できます。モジュールが回復状態になっているときに **sw-module module reset** コマンドを入力しても、モジュールは回復プロセスを中断しません。**sw-module module reset** コマンドによって、モジュールのリセットが実行され、リセット後にモジュールの回復が続行します。モジュールがハングした場合は、回

復中にモジュールをリセットできます。ハードウェアリセットによって、問題が解決することもあります。

このコマンドは、ソフトウェアのリロードのみを行いリセットは行わない **sw-module module reload** コマンドとは異なります。

このコマンドは、モジュールのステータスがアップ、ダウン、無応答、または回復のいずれかの場合にのみ有効です。ステート情報については、**show module** コマンドを参照してください。

例

次に、アップ状態の IPS モジュールをリセットする例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips reset
The module in slot ips should be shut down before
resetting it or loss of configuration may occur.
Reset module in slot ips? [confirm] y
Reset issued for module in slot ips
%XXX-5-505001: Module in slot ips is shutting down. Please wait...
%XXX-5-505004: Module in slot ips shutdown is complete.
%XXX-5-505003: Module in slot ips is resetting. Please wait...
%XXX-5-505006: Module in slot ips is Up.
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug module-boot	モジュールのブートプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
sw-module module recover	ディスクから回復イメージをロードして、モジュールを回復します。
sw-module module reload	モジュールソフトウェアをリロードします。
sw-module module shutdown	コンフィギュレーションデータを失わずに電源を切る準備をして、モジュールソフトウェアをシャットダウンします。
show module	モジュール情報を表示します。

sw-module module shutdown

モジュールソフトウェアをシャットダウンするには、特権 EXEC モードで **sw-module module shutdown** コマンドを使用します。

sw-module module id shutdown

構文の説明

id 次のいずれかのモジュールIDを指定します。

- **sfr** : ASA FirePOWER モジュール。
- **ips** : IPS モジュール
- **cxsc** : ASA CX モジュール

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.6(1) このコマンドが追加されました。

9.1(1) **cxsc** キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。

9.2(1) **sfr** キーワードを使用する ASA FirePOWER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

モジュールソフトウェアをシャットダウンするのは、コンフィギュレーションデータを失うことなく安全にモジュールの電源をオフにできるように準備するためです。

このコマンドは、モジュールステータスがアップまたは無応答である場合にのみ有効です。ステート情報については、**show module** コマンドを参照してください。

例

次に、IPS モジュールをシャットダウンする例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips shutdown
Shutdown module in slot ips? [confirm] y
Shutdown issued for module in slot ips
ciscoasa#
%XXX-5-505001: Module in slot ips is shutting down. Please wait...
%XXX-5-505004: Module in slot ips shutdown is complete.
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug module-boot	モジュールのブートプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
sw-module module recover	ディスクから回復イメージをロードして、モジュールを回復します。
sw-module module reload	モジュールソフトウェアをリロードします。
sw-module module reset	モジュールをシャットダウンし、リセットを実行します。
show module	モジュール情報を表示します。

sw-module module uninstall

ソフトウェア モジュール イメージおよび関連するコンフィギュレーションをアンインストールするには、特権 EXEC モードで **sw-module module uninstall** コマンドを使用します。

sw-module module *id* uninstall

構文の説明

id 次のいずれかのモジュールIDを指定します。

- **sfr** : ASA FirePOWER モジュール。
- **ips** : IPS モジュール
- **cxsc** : ASA CX モジュール

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
特権 EXEC	• 対応	• 対応	• 対応	—	• 対応

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

8.6(1) このコマンドが追加されました。

9.1(1) **cxsc** キーワードを使用する ASA CX ソフトウェアモジュールのサポートが追加されました。

9.2(1) **sfr** キーワードを使用する ASA FirePOWER モジュールのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、ソフトウェア モジュール イメージおよび関連するコンフィギュレーションを永続的にアンインストールします。

例

次に、IPS モジュール イメージおよびコンフィギュレーションをアンインストールする例を示します。

```
ciscoasa# sw-module module ips uninstall
```

```
Module ips will be uninstalled. This will completely remove the
disk image associated with the sw-module including any configuration
that existed within it.
Uninstall module <id>? [confirm]
```

関連コマンド

コマンド	説明
debug module-boot	モジュールのブートプロセスに関するデバッグメッセージを表示します。
sw-module module recover	ディスクから回復イメージをロードして、モジュールを回復します。
sw-module module reload	モジュールソフトウェアをリロードします。
sw-module module reset	モジュールをシャットダウンし、リセットを実行します。
show module	モジュール情報を表示します。

switchport access vlan

アクセスモードのスイッチポートに VLAN を設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport access vlan** コマンドを使用します。デフォルトの VLAN 1 に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport access vlan number
no switchport access vlan number



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

構文の説明

vlan number このスイッチポートを割り当てる VLAN ID を指定します。VLAN ID は、1 ~ 4070 (Firepower 1010) または 4090 (ASA 5505) の範囲で指定します。

コマンド デフォルト

Firepower 1010 : デフォルトでは、イーサネット 0/1 ~ 0/7 が VLAN 1 に割り当てられ、イーサネット 0/0 が VLAN 2 に割り当てられます。

Firepower 1010 : デフォルトでは、イーサネット 1/2 ~ 1/8 のスイッチポートがアクセスモードとなり、VLAN 1 に割り当てられます。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

アクセスポートは、タグなしのトラフィックのみを受け入れます。ASA は、指定した VLAN を使用してスイッチポートに入るトラフィックにタグを付け、同じ VLAN 上の他のアクセス

ポートまたはトランクポートにトラフィックを転送できるようにします。VLANタグは、別のアクセスポートを出力すると削除されますが、トランクポートを出力しても保持されます。



- (注) ASAは、ネットワーク内のループ検出に使用されるスパニングツリープロトコルをサポートしていません。したがって、ASAとの接続はいずれもネットワークループ内で終わらないようにする必要があります。

ASA 5505

トランスペアレントファイアウォールモードでは、ASA 5505 基本ライセンスはアクティブVLANを2つ、Security Plus ライセンスは3つ設定できます。そのうちの1つは、フェールオーバー用です。

ルーテッドモードでは、ASA 5505 の基本ライセンスで最大3つのアクティブVLANと Security Plus ライセンスで最大20のアクティブVLANを設定できます。

アクティブなVLANとは、**nameif** コマンドが設定されたVLANのことです。

例

次に、5つのASA 5505物理インターフェイスを3つのVLANインターフェイスに割り当てる例を示します。

```
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 100
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/1
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/2
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/3
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/4
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 300
ciscoasa(config-if)# no shutdown
...
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
show running-config interface	実行コンフィギュレーションのインターフェイスコンフィギュレーションを表示します。
switchport	インターフェイスをスイッチポートモードに設定します。
switchport mode	VLANモードをアクセスまたはトランクに設定します。

コマンド	説明
switchport protected	セキュリティを高めるため、スイッチポートが同一VLAN上の別のスイッチポートと通信しないようにします。
switchport trunk allowed vlan	VLAN をトランクポートに割り当てます。

switchport

インターフェイスをスイッチポートモードに設定するには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをファイアウォールモードに設定するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport
no switchport



(注) Firepower 1010 でのみサポートされています。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

イーサネット 1/2 ~ 1/8 では、このコマンドがデフォルトで有効になっています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

9.13(1) コマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

各インターフェイスは、ファイアウォール インターフェイスまたはスイッチ ポートのいずれかになるように個別に設定できます。デフォルトでは、イーサネット 1/1 はファイアウォール インターフェイスで、残りのイーサネット インターフェイスはスイッチ ポートとして設定されます。

管理 1/1 インターフェイスをスイッチポートモードに設定することはできません。

このインターフェイスがすでにスイッチポートモードの場合、**switchport** コマンドを入力すると、モードを変更する代わりにスイッチポートパラメータを入力するよう求められます。

例

次に、イーサネット 1/3 および 1/4 をファイアウォールモードに設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface ethernet1/3
ciscoasa(config-if)# no switchport
ciscoasa(config-if)# interface ethernet1/3
ciscoasa(config-if)# no switchport
ciscoasa(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
forward interface	1 つの VLAN から別の VLAN への転送を無効にします。
interface vlan	Firepower 1010 スイッチポートで使用する VLAN インターフェイスを作成します。
switchport	インターフェイスをスイッチポートモードに設定します。
switchport access vlan	アクセスモードのスイッチポートで VLAN を特定します。
switchport mode	スイッチポートをアクセスモードまたはトランクモードに設定します。
switchport trunk allowed vlan	トランクモードのスイッチポートで VLAN を特定します。

switchport mode

スイッチポートの VLAN をアクセスモード（デフォルト）またはトランクモードのいずれかに設定するには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **switchport mode** コマンドを使用します。デフォルトのアクセスモードに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport mode { access | trunk }
no switchport mode { access | trunk }
```



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

構文の説明

access スイッチポートをアクセスモードに設定します。このモードでは、スイッチポートで 1つの VLAN のみのトラフィックを渡すことができます。タグなしパケットのみが許可されます。パケットがタグ付きでスイッチポートに入ると、パケットはドロップされます。パケットは、802.1Q VLAN タグなしでスイッチポートから出ます。

trunk スイッチポートをトランクモードに設定します。そのため、複数の VLAN のトラフィックを渡すことができます。タグ付きのパケットとタグなしパケットの両方が許可されます。パケットは、802.1Q VLAN タグ付きでスイッチポートから出ます。パケットがタグなしでスイッチポートに入ると、ネイティブ VLAN に割り当てられます。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、モードはアクセスです。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
S

7.2(1) このコマンドが追加されました。

リリース 変更内容

7.2(2) 1つのトランクに制限されず、複数のトランク ポートを設定できるようになりました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

モードをアクセスモードに設定した後、**switchport vlan access** コマンドを使用して VLAN を識別します。

モードをトランクモードに設定した後、**switchport trunk allowed vlan** コマンドを使用して、複数の VLAN をトランクに割り当てます。モードをトランクモードに設定したが、まだ **switchport trunk allowed vlan** コマンドを設定していない状態では、スイッチポートが「回線プロトコルダウン」状態になり、トラフィック転送に参加できません。ASA 5505 でトランクモードが使用できるのは、Security Plus ライセンスだけです。

例

次に、VLAN 100 に割り当てられたアクセス モードのスイッチ ポートおよび VLAN 200 および 300 に割り当てられたトランク モードのスイッチ ポートを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 100
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/1
ciscoasa(config-if)# switchport mode trunk
ciscoasa(config-if)# switchport trunk allowed vlan 200,300
ciscoasa(config-if)# no shutdown
...
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config interface	実行コンフィギュレーションのインターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
switchport	インターフェイスをスイッチポートモードに設定します。
switchport access vlan	スイッチ ポートを VLAN に割り当てます。
switchport protected	セキュリティを高めるため、スイッチ ポートが同一 VLAN 上の別のスイッチ ポートと通信しないようにします。
switchport trunk allowed vlan	VLAN をトランク ポートに割り当てます。

switchport monitor

SPAN スイッチポートモニタリングをイネーブルにするには、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **switchport monitor** コマンドを使用します。このコマンドを入力する対象のポート（宛先ポートと呼ばれる）では、指定した送信元ポートで送受信されるすべてのパケットのコピーを受信します。SPAN 機能を使用すると、トラフィックをモニターできるように、スニファを宛先ポートに接続できます。このコマンドを複数回入力して、複数の送信元ポートを指定できます。SPAN をイネーブルにすることができるのは、1つの宛先ポートのみです。送信元ポートのモニタリングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport monitor source_port [tx | rx | both]
no switchport monitor source_port [tx | rx | both]



(注) ASA 5505 でのみサポートされています。

構文の説明

- both** (任意) 送信トラフィックと受信トラフィックの両方をモニターすることを指定します。**both** がデフォルトです。

- rx** (任意) 受信トラフィックのみをモニターすることを指定します。

- source_port** モニターするポートを指定します。任意のイーサネットポートおよび VLAN インターフェイス間でトラフィックを渡す **Internal-Data0/1** バックプレーンポートを指定できます。**Internal-Data0/1** ポートはギガビットイーサネットポートであるため、ファストイーサネット宛先ポートをトラフィックによって過負荷にする場合があります。**Internal-Data0/1** ポートは注意してモニターしてください。

- tx** (任意) 送信トラフィックのみをモニターすることを指定します。

コマンドデフォルト

モニターするトラフィックのデフォルトのタイプは **both** です。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイスコンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

SPAN をイネーブルにしない場合、スニファをスイッチポートの1つに接続すると、そのポートで送受信されるトラフィックのみがキャプチャされます。複数のポートで送受信されるトラフィックをキャプチャするには、SPAN をイネーブルにし、モニターするポートを指定する必要があります。

ネットワークループになる可能性があるため、SPAN宛先ポートを別のスイッチに接続するときは注意してください。

例

次に、イーサネット 0/0 ポートとイーサネット 0/2 ポートをモニターする宛先ポートとして、イーサネット 0/1 ポートを設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# interface ethernet 0/1
ciscoasa(config-if)# switchport monitor ethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# switchport monitor ethernet 0/2
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーション モードを開始します。
show running-config interface	実行コンフィギュレーションのインターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
switchport access vlan	スイッチポートを VLAN に割り当てます。
switchport protected	セキュリティを高めるため、スイッチポートが同一 VLAN 上の別のスイッチポートと通信しないようにします。

switchport protected

スイッチポートが同じ VLAN 上の他の保護されたスイッチポートと通信しないようにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport protected** コマンドを入力します。この機能により、あるスイッチポートが侵害された場合に、VLAN 上の他のスイッチポートに対して強固なセキュリティを提供します。保護されたモードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

switchport protected
no switchport protected



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、インターフェイスは保護されていません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

7.2(1) このコマンドが追加されました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

スイッチポート上のデバイスが主に他の VLAN からアクセスされる場合、VLAN 内アクセスを許可する必要がない場合、および感染やその他のセキュリティ侵害に備えてデバイスを相互に分離する場合に、スイッチポートが相互に通信しないようにします。たとえば、3つの Web サーバーをホストする DMZ がある場合、各スイッチポートに **switchport protected** コマンドを適用すると、Web サーバーを相互に分離できます。内部ネットワークと外部ネットワークはい

いずれも 3 つの Web サーバーすべてと通信でき、その逆も可能ですが、Web サーバーは相互に通信できません。

保護されていないポートとの通信は、このコマンドによって制限されません。

例

次に、7 つのスイッチポートを設定する例を示します。イーサネット 0/4、0/5、および 0/6 は DMZ ネットワークに割り当てられ、相互から保護されます。

```
ciscoasa(config)# interface ethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 100
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/1
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/2
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/3
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 200
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/4
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 300
ciscoasa(config-if)# switchport protected
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/5
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 300
ciscoasa(config-if)# switchport protected
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/6
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 300
ciscoasa(config-if)# switchport protected
ciscoasa(config-if)# no shutdown
...
```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。
show running-config interface	実行コンフィギュレーションのインターフェイスコンフィギュレーションを表示します。
switchport access vlan	スイッチポートを VLAN に割り当てます。
switchport mode	VLAN モードをアクセスまたはトランクに設定します。
switchport trunk allowed vlan	VLAN をトランクポートに割り当てます。

switchport trunk

VLAN をトランクポートに割り当てるには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **switchport trunk** コマンドを使用します。VLAN をトランクから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
switchport trunk { allowed vlans vlan_range | native vlan vlan }
no switchport trunk { allowed vlans vlan_range | native vlan vlan }
```



(注) Firepower 1010 および ASA 5505 でのみサポートされています。

構文の説明

allowed vlans <i>vlan_range</i>	<p>トランク ポートに割り当てることができる 1 つ以上の VLAN を指定します。VLAN ID は、1 ~ 4070 (Firepower 1010) または 4090 (ASA 5505) の範囲で指定します。</p> <p><i>vlan_range</i> は、次のいずれかの方法で指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 単一の番号 (n) • 範囲 (n-x) <p>番号および範囲は、カンマで区切ります。たとえば、次のように指定します。</p> <p>5,7-10,13,45-100</p> <p>カンマの代わりにスペースを入力できますが、コマンドはカンマ付きでコンフィギュレーションに保存されます。</p> <p>このコマンドにネイティブ VLAN を含めても無視されます。トランクポートは、ネイティブ VLAN トラフィックをポートから送信するときに、常に VLAN タグを削除します。また、まだネイティブ VLAN タグが付いているトラフィックを受信しません。</p>
native vlan <i>vlan</i>	<p>ネイティブ VLAN をトランクに割り当てます。トランクは、タグなしトラフィックを受信すると、そのトラフィックをネイティブ VLAN ID にタグ付けして、ASA が正しいスイッチポートにトラフィックを転送したり、別のファイアウォールインターフェイスにルーティングしたりできるようにします。ASA は、トランクポートからネイティブ VLAN ID トラフィックを送信する際に VLAN タグを削除します。タグなしトラフィックが同じ VLAN にタグ付けされるように、他のスイッチのトランクポートに同じネイティブ VLAN を設定してください。</p> <p>各ポートのネイティブ VLAN は 1 つのみですが、すべてのポートに同じネイティブ VLAN または異なるネイティブ VLAN を使用できます。</p>

コマンド デフォルト デフォルトでは、VLAN はトランクに割り当てられていません。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
インターフェイス コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	—	—

コマンド履歴

リリース 変更内容

7.2(1) このコマンドが追加されました。

7.2(2) このコマンドは、スイッチポートごとに4つ以上のVLANを許可するように変更されました。また、1つのみに制限されず、複数のトランクポートを設定できるようになりました。このコマンドで、VLAN IDを区切るためにスペースではなくカンマも使用されます。

7.2(4)/8.0(4) **native vlan** キーワードを使用するネイティブVLANサポートが追加されました。

9.13(1) Firepower 1010 のサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

スイッチポートで複数のVLANを渡すトランクポートを作成する場合は、**switchport mode trunk** コマンドを使用してモードをトランクモードに設定してから、**switchport trunk** コマンドを使用してVLANをトランクに割り当てます。このスイッチポートに少なくとも1つのVLANを割り当てるまで、このスイッチポートでトラフィックを渡すことはできません。モードをトランクモードに設定したが、まだ**switchport trunk allowed vlan** コマンドを設定していない状態では、スイッチポートが「回線プロトコルダウン」状態になり、トラフィック転送に参加できません。

ASA 5505

トランクモードが使用できるのは Security Plus ライセンスだけです。



(注) このコマンドにはバージョン7.2(1)との下位互換性はありません。VLANを区切るカンマは7.2(1)では認識されません。ダウングレードする場合は、VLANをスペースで区切り、3つのVLANという制限を超えないようにしてください。

例

次に、7つのVLANインターフェイスを設定する例を示します。**failover lan** コマンドを使用して設定するフェールオーバーインターフェイスが含まれています。VLAN 200、201、および202は、イーサネット0/1でトランッキングされています。

```

ciscoasa(config)# interface vlan 100
ciscoasa(config-if)# nameif outside
ciscoasa(config-if)# security-level 0
ciscoasa(config-if)# ip address 10.1.1.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface vlan 200
ciscoasa(config-if)# nameif inside
ciscoasa(config-if)# security-level 100
ciscoasa(config-if)# ip address 10.2.1.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface vlan 201
ciscoasa(config-if)# nameif dept1
ciscoasa(config-if)# security-level 90
ciscoasa(config-if)# ip address 10.2.2.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface vlan 202
ciscoasa(config-if)# nameif dept2
ciscoasa(config-if)# security-level 90
ciscoasa(config-if)# ip address 10.2.3.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface vlan 300
ciscoasa(config-if)# nameif dmz
ciscoasa(config-if)# security-level 50
ciscoasa(config-if)# ip address 10.3.1.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface vlan 400
ciscoasa(config-if)# nameif backup-isp
ciscoasa(config-if)# security-level 50
ciscoasa(config-if)# ip address 10.1.2.1 255.255.255.0
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# failover lan faillink vlan500
ciscoasa(config)# failover interface ip faillink 10.4.1.1 255.255.255.0 standby 10.4.1.2
255.255.255.0
ciscoasa(config)# interface ethernet 0/0
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 100
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/1
ciscoasa(config-if)# switchport mode trunk
ciscoasa(config-if)# switchport trunk allowed vlan 200-202
ciscoasa(config-if)# switchport trunk native vlan 5
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/2
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 300
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/3
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 400
ciscoasa(config-if)# no shutdown
ciscoasa(config-if)# interface ethernet 0/4
ciscoasa(config-if)# switchport access vlan 500
ciscoasa(config-if)# no shutdown

```

関連コマンド

コマンド	説明
interface	インターフェイスを設定し、インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始します。

コマンド	説明
show running-config interface	実行コンフィギュレーションのインターフェイス コンフィギュレーションを表示します。
switchport access vlan	スイッチ ポートを VLAN に割り当てます。
switchport mode	VLAN モードをアクセスまたはトランクに設定します。
switchport protected	セキュリティを高めるため、スイッチ ポートが同一 VLAN 上の別のスイッチ ポートと通信しないようにします。

synack-data

データが含まれる TCP SYNACK パケットのアクションを設定するには、tcp マップ コンフィギュレーションモードで **synack-data** コマンドを使用します。値をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。このコマンドは、**set connection advanced-options** コマンドを使用してイネーブルにされる TCP 正規化ポリシーの一部です。

synack-data { allow | drop }
no synack-data

構文の説明

allow データが含まれる TCP SYNACK パケットを許可します。

drop データが含まれる TCP SYNACK パケットをドロップします。

コマンドデフォルト

デフォルトアクションでは、データが含まれる TCP SYNACK パケットをドロップします。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
TCP マップ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容

7.2(4)/8.0(4) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

TCP 正規化をイネーブルにするには、モジュラ ポリシー フレームワークを次のように使用します。

- tcp-map** : TCP 正規化アクションを指定します。
 - synack-data** : tcp マップ コンフィギュレーション モードでは、**synack-data** コマンド およびその他数多くのコマンドを入力できます。
- class-map** : TCP 正規化を実行するトラフィックを指定します。
- policy-map** : 各クラスマップに関連付けるアクションを指定します。
 - class** : アクションを実行するクラスマップを指定します。
 - set connection advanced-options** : 作成した TCP マップを指定します。

4. **service-policy** : ポリシーマップをインターフェイスごとに、またはグローバルに割り当てます。

例

次に、データが含まれる TCP SYNACK パケットを許可するように ASA を設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# tcp-map tmap
ciscoasa(config-tcp-map)# synack-data allow
ciscoasa(config)# class-map cmap
ciscoasa(config-cmap)# match any
ciscoasa(config)# policy-map pmap
ciscoasa(config-pmap)# class cmap
ciscoasa(config-pmap)# set connection advanced-options tmap
ciscoasa(config)# service-policy pmap global
ciscoasa(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
class-map	サービス ポリシーに対してトラフィックを指定します。
policy-map	サービス ポリシー内でトラフィックに適用するアクションを指定します。
set connection advanced-options	TCP 正規化をイネーブルにします。
service-policy	サービス ポリシーをインターフェイスに適用します。
show running-config tcp-map	TCP マップ コンフィギュレーションを表示します。
tcp-map	TCP マップを作成して、TCP マップ コンフィギュレーションモードにアクセスできるようにします。

synchronization

BGP と内部ゲートウェイプロトコル (IGP) システム間の同期をイネーブルにするには、アドレスファミリー コンフィギュレーション モードで `synchronization` コマンドを使用します。Cisco IOS ソフトウェアが IGP を待機せずにネットワークルートをアドバタイズできるようにするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

synchronization
no synchronization

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

このコマンドは、デフォルトでディセーブルになっています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
アドレスファミリー コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

9.2(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

通常、ルートがローカルであるか IGP に存在する場合を除き、BGP スピーカーは外部ネイバーにルートをアドバタイズしません。デフォルトでは BGP と IGP 間の同期はオフになっており、Cisco IOS ソフトウェアが IGP を待機せずにネットワークルートをアドバタイズできるようになっています。この機能により、自律システム内のルータおよびアクセス サーバーは、BGP が他の自律システムでルートを使用可能にする前にルートを確保できるようになります。

自律システム内のルータが BGP を実行していない場合は、`synchronization` コマンドを使用します。

例

次に、アドレスファミリー コンフィギュレーション モードで同期をイネーブルにする例を示します。ルータは、ルートを外部にアドバタイズする前に、IGP 内のネットワークルートを検証します。

```
ciscoasa(config)# router bgp 65120
ciscoasa(config-router)# address-family ipv4 unicast
ciscoasa(config-router-af)# synchronization
```

syn-data

データが含まれる SYN パケットを許可またはドロップするには、tcp マップ コンフィギュレーション モードで **syn-data** コマンドを使用します。この指定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
syn-data { allow | drop }
no syn-data { allow | drop }
```

構文の説明

allow データが含まれる SYN パケットを許可します。

drop データが含まれる SYN パケットをドロップします。

コマンドデフォルト

デフォルトでは、SYN データが含まれるパケットは許可されます。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
TCP マップ コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

tcp-map コマンドはモジュラ ポリシー フレームワーク インフラストラクチャと一緒に使用されます。**class-map** コマンドを使用してトラフィックのクラスを定義し、**tcp-map** コマンドで TCP インспекションをカスタマイズします。**policy-map** コマンドを使用して、新しい TCP マップを適用します。**service-policy** コマンドで、TCP インспекションをアクティブにします。

tcp-map コマンドを使用して、TCP マップ コンフィギュレーション モードを開始します。tcp マップ コンフィギュレーション モードで **syn-data** コマンドを使用して、SYN パケット内にデータが含まれるパケットをドロップします。

TCP の仕様によると、TCP 実装は SYN パケット内に含まれているデータを受け入れる必要があります。これは微妙であいまいな点であるため、一部の实装ではこのことが正しく処理されない場合があります。不適切なエンドシステム実装などの挿入攻撃に対する脆弱性を回避するために、SYN パケット内にデータが含まれるパケットをドロップすることを選択できます。

例

次に、データが含まれる SYN パケットをすべての TCP フローでドロップする例を示します。

```
ciscoasa(config)# access-list TCP extended permit tcp any any
ciscoasa(config)# tcp-map tmap
ciscoasa(config-tcp-map)# syn-data drop
ciscoasa(config)# class-map cmap
ciscoasa(config-cmap)# match access-list TCP
ciscoasa(config)# policy-map pmap
ciscoasa(config-pmap)# class cmap
ciscoasa(config-pmap)# set connection advanced-options tmap
ciscoasa(config)# service-policy pmap global
ciscoasa(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
class	トラフィック分類に使用するクラス マップを指定します。
policy-map	ポリシーを設定します。これは、1つのトラフィック クラスと1つ以上のアクションのアソシエーションです。
set connection	接続値を設定します。
tcp-map	TCP マップを作成して、TCP マップ コンフィギュレーション モードにアクセスできるようにします。

sysopt connection permit-vpn

VPN トンネルを介して ASA に入り復号化されるトラフィックに対して、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt connection permit-vpn** コマンドを使用して、トラフィックが インターフェイス アクセス リストをバイパスできるようにします。グループ ポリシーおよび ユーザー単位の認可アクセスリストは、引き続きトラフィックに適用されます。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt connection permit-vpn
no sysopt connection permit-vpn

outputclass="syntax">

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容

7.0(1) このコマンドは、デフォルトでイネーブルになりました。また、インターフェイス アクセス リストのみがバイパスされます。グループ ポリシーまたはユーザー単位のアクセス リストは有効なままです。

7.1(1) このコマンドは、**sysopt connection permit-ipsec** から変更されました。

9.0(1) マルチ コンテキスト モードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

デフォルトでは、ASA によって、VPN トラフィックが ASA のインターフェイスで終端することが許可されています。IKE または ESP（またはその他のタイプの VPN パケット）をインターフェイス アクセス リストで許可する必要はありません。デフォルトでは、復号化された VPN パケットのローカル IP アドレスのインターフェイス アクセス リストも必要ありません。VPN トンネルは VPN セキュリティ メカニズムを使用して正常に終端されたので、この機能によって、構成が簡略化され、セキュリティ リスクを負うことなく、デバイスのパフォーマンスが最

大化されます。（グループポリシーおよびユーザー単位の認可アクセスリストは、引き続きトラフィックに適用されます）。

no sysopt connection permit-vpn コマンドを入力して、インターフェイスアクセスリストをローカル IP アドレスに適用できます。アクセスリストを作成してインターフェイスに適用するには、**access-list** コマンドおよび **access-group** コマンドを参照してください。アクセスリストは、ローカル IP アドレスに適用され、VPN パケットが復号化される前に使用された元のクライアント IP アドレスには適用されません。



(注) ルートベースの VPN の場合、このコマンドは無視されます。ルートベースの VPN トラフィックを許可するには、アクセス制御ルールを設定する必要があります。

例

次に、復号化された VPN トラフィックがインターフェイスアクセスリストに従うようにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# no
sysopt connection permit-vpn
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。
sysopt connection tcpmss	TCP セグメントの最大サイズを上書きします。または、確実に最大サイズが指定したサイズよりも小さくならないようにします。
sysopt connection timewait	最後の標準 TCP クローズダウンシーケンスの後、各 TCP 接続が短縮 TIME_WAIT 状態を保持するようにします。

sysopt connection preserve-vpn-flows

トンネルのドロップおよび回復後のタイムアウト期間内に、ステートフル (TCP) トンネル IPSec LAN-to-LAN トラフィックを保持して再開するには、**sysopt connection preserve-vpn-flows** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt connection preserve-vpn-flows
no sysopt connection preserve-vpn-flows

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能はデフォルトで無効に設定されています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

8.0(4) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチコンテキストモードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

永続的 IPSec トンネル フロー機能がイネーブルの場合、タイムアウト ウィンドウ内にトンネルが再作成される限り、セキュリティアプライアンスで元のフロー内の状態情報にアクセスできるため、データは正常に流れ続けます。

このコマンドでは、ネットワーク拡張モードを含め、IPSec LAN-to-LAN トンネルのみがサポートされます。AnyConnect/SSL VPN または IPSec リモートアクセス トンネルはサポートされません。

例

次に、トンネルがドロップされ、タイムアウト期間内に再確立された後、トンネルの状態情報が保持されてトンネル IPSec LAN-to-LAN VPN トラフィックが再開されることを指定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# no sysopt connection preserve-vpn-flows
```

この機能がイネーブルかどうかを確認するには、`sysopt` に対して `show run all` コマンドを入力します。

```
ciscoasa(config)# show run all sysopt
```

結果の例は次のとおりです。説明のために、これ以降のすべての例では、`preserve-vpn-flows` の項目は太字になっています。

```
no sysopt connection timewait
sysopt connection tcpmss 1380
sysopt connection tcpmss minimum 0
no sysopt nodnsalias inbound
no sysopt nodnsalias outbound
no sysopt radius ignore-secret
sysopt connection permit-vpn
no sysopt connection reclassify-vpn
no sysopt connection preserve-vpn-flows
hostname (config) #
```


sysopt connection reclassify-vpn

既存の VPN フローを再分類するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt connection reclassify-vpn** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt connection reclassify-vpn
no sysopt connection reclassify-vpn

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能は、デフォルトでイネーブルにされています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	—	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

8.0(2) このコマンドが追加されました。

9.0(1) マルチコンテキストモードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

VPN トンネルの新しい IPsec フェーズ 2 セキュリティアソシエーション (SA) が起動すると、このコマンドは新しい SA に一致する既存のフローを破棄し、暗号化が必要な既存のフローが破棄され、再作成され、暗号化されるようにします。

コマンドが無効になっている場合、暗号化が必要な既存の接続を再確立して新しい VPN トンネルを通過させるには、暗号化を必要とする既存の接続を手動でクリアする必要があります (たとえば、`clear conn addr xxxx port xx` を使用)。

このコマンドは、LAN-to-LAN およびダイナミック VPN についてのみ適用されます。このコマンドは EZVPN または VPN クライアント接続には影響しません。

例

次に、VPN 再分類をイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt connection reclassify-vpn
```

関連コマンド	コマンド	説明
	clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
	show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。
	sysopt connection permit-vpn	インターフェイスのアクセス リストを確認することなく、IPsec トンネルを経由してきたパケットを許可します。
	sysopt connection tcpmss	TCP セグメントの最大サイズを上書きします。または、確実に最大サイズが指定したサイズよりも小さくならないようにします。
	sysopt connection timewait	最後の標準 TCP クローズダウンシーケンスの後、各 TCP 接続が短縮 TIME_WAIT 状態を保持するようにします。

sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg

TCP 未処理セグメントの最大数を設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg segments
no sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg segments

構文の説明

segments TCP 未処理セグメントの最大数を 6～24 に設定します。

コマンド デフォルト

コマンドのデフォルトはありませんが、未処理セグメントのデフォルト数は 6 です。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

9.19(1) このコマンドが追加されました。また、リリース 9.12 以降のポイントリリースでも使用できます。

使用上のガイドライン

SIP 電話機が Call Manager に接続していないことを確認したら、このコマンドを使用して未処理の TCP セグメントの最大数を増やすことができます。デフォルトは 6 であるため、より大きな数値を試してください。

例

次に、未処理セグメントの最大数を 24 に設定する例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt connection tcp-max-unprocessed-seg 24
```

sysopt connection tcpmss

通過トラフィックの最大 TCP セグメントサイズが設定した値を超えないようにし、指定したサイズ未満にならないようにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **sysopt connection tcpmss** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt connection tcpmss [minimum] bytes
no sysopt connection tcpmss [minimum] [bytes]

構文の説明

bytes 最大 TCP セグメントサイズをバイト単位で設定します (48 ~ 任意の最大値)。デフォルト値は 1380 バイトです。この機能をディセーブルにするには、**bytes** を 0 に設定します。

minimum キーワードの場合、**bytes** は許可される最も小さい最大値を表します。

minimum 最大セグメントサイズを上書きし、**bytes** 未満にならないようにします (48 ~ 65535 バイト)。この機能は、デフォルトでディセーブルです (0 に設定)。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、ASA の最大 TCP MSS は 1380 バイトです。このデフォルトは、ヘッダーが最大 120 バイトの IPv4 IPsec VPN 接続に対応しています。この値は、MTU のデフォルトの 1500 バイト内にも収まっています。

minimum 機能は、デフォルトでディセーブルです (0 に設定)。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュ レーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

最大セグメントサイズ (TCP MSS) とは、あらゆる TCP および IP ヘッダーが追加される前の TCP ペイロードのサイズです。UDP パケットは影響を受けません。接続を確立するときのスリーウェイ ハンドシェイク中に、クライアントとサーバーは TCP MSS 値を交換します。

通過トラフィックの TCP MSS を ASA に設定できます。デフォルトでは、最大 TCP MSS は 1380 バイトに設定されます。この設定は、ASA が IPsec VPN カプセル化の packets サイズを追加する必要がある場合に役立ちます。ただし、非 IPsec エンドポイントでは、ASA の最大 TCP MSS を無効にする必要があります。

最大 TCP MSS を設定している場合、接続のいずれかのエンドポイントが ASA に設定された値を超える TCP MSS を要求すると、ASA は要求パケット内の TCP MSS を ASA の最大サイズで書き換えます。ホストまたはサーバーが TCP MSS を要求しない場合、ASA は RFC 793 のデフォルト値 536 バイト (IPv4) または 1220 バイト (IPv6) を想定しますが、パケットは変更しません。たとえば、MTU をデフォルトの 1500 バイトのままにします。ホストは、1500 バイトの MSS から TCP および IP のヘッダー長を減算して、MSS を 1460 バイトに設定するように要求します。ASA の最大 TCP MSS が 1380 (デフォルト) の場合は、ASA は TCP 要求パケットの MSS 値を 1380 に変更します。その後、サーバーは、1380 バイトのペイロードを含むパケットを送信します。ASA は、最大 120 バイトのヘッダーをパケットに追加しても、1500 バイトの MTU サイズに適応することができます。

TCP の最小 MSS も設定できます。ホストまたはサーバーが非常に小さい TCP MSS を要求した場合、ASA は値を調整します。デフォルトでは、最小 TCP MSS は有効ではありません。

SSL VPN 接続用を含め、to-the-box トラフィックの場合、この設定は適用されません。ASA は MTU を使用して、TCP MSS を導き出します。MTU - 40 (IPv4) または MTU - 60 (IPv6) となります。

デフォルトでは TCP MSS は、ASA が IPv4 IPsec VPN エンドポイントとして機能し、MTU が 1500 バイトであることを前提としています。ASA が IPv4 IPsec VPN エンドポイントとして機能している場合は、最大 120 バイトの TCP および IP ヘッダーに対応する必要があります。

MTU 値を変更して、IPv6 を使用するか、または IPsec VPN エンドポイントとして ASA を使用しない場合は、TCP MSS 設定を変更する必要があります。次のガイドラインを参照してください。

- 通常のトラフィック：TCP MSS の制限を無効にし、接続のエンドポイント間で確立された値を受け入れます。一般に接続エンドポイントは MTU から TCP MSS を取得するため、非 IPsec パケットは通常この TCP MSS を満たしています。
- IPv4 IPsec エンドポイントトラフィック：最大 TCP MSS を MTU - 120 に設定します。たとえば、ジャンボフレームを使用しており、MTU を 9000 に設定すると、新しい MTU を使用するために、TCP MSS を 8880 に設定する必要があります。
- IPv6 IPsec エンドポイントトラフィック：最大 TCP MSS を MTU - 140 に設定します。

例

下記の例では、ジャンボフレームをイネーブルにし、すべてのインターフェイスの MTU を増加し、非 VPN トラフィックの TCP MSS をディセーブルにします (TCP MSS を 0 に設定、すなわち無制限とすることによって行います)。

```
ciscoasa(config)# jumbo frame-reservation
ciscoasa(config)# mtu inside 9198
ciscoasa(config)# mtu outside 9198
ciscoasa(config)# sysopt connection tcpmss 0
```

下記の例では、ジャンボ フレームをイネーブルにし、すべてのインターフェイスの MTU を増加し、VPN トラフィックの TCP MSS を 9078 に変更します (MTU から 120 を差し引きます)。

```
ciscoasa(config)# jumbo frame-reservation
ciscoasa(config)# mtu inside 9198
ciscoasa(config)# mtu outside 9198
ciscoasa(config)# sysopt connection tcpmss 9078
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。
sysopt connection permit-ipsec	ACL でインターフェイスをチェックせずに IPsec トンネルからのすべてのパケットを許可します。
sysopt connection timewait	最後の標準 TCP クローズダウン シーケンスの後、各 TCP 接続が短縮 TIME_WAIT 状態を保持するようにします。

sysopt connection timewait

各 TCP 接続において、最後の通常の TCP クローズダウンシーケンスの後に、少なくとも 15 秒の短い TIME_WAIT 状態が強制的に維持されるようにするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **sysopt connection timewait** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。エンドホストアプリケーションのデフォルト TCP 終了シーケンスが同時クローズである場合に、この機能を使用することを推奨します。

sysopt connection timewait
no sysopt connection timewait



- (注) FIN_WAIT2 状態で受信した RST パケット（通常の TCP クローズダウンシーケンスではなく）は、15 秒の遅延もトリガーします。ASA では、接続の最後のパケット（FIN/ACK または RST）を受信した後、接続を 15 秒間保持します。

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能はデフォルトで無効に設定されています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ASA のデフォルトの動作では、シャットダウンシーケンスが追跡され、2 つの FIN と最後の FIN セグメントの ACK の後で接続が解放されます。この即時解放ヒューリスティックにより、ASA では、標準クローズシーケンスと呼ばれる最も一般的なクローズングシーケンスに基づいて、高い接続レートを維持できます。ただし、一方の端が閉じ、もう一方の端が確認応答してから独自のクローズングシーケンスを開始する標準クローズシーケンスとは異なり、同時クローズでは、トランザクションの両端がクローズングシーケンスを開始します（RFC 793 を参照）。したがって、同時クローズでは、即時解放によって接続の一方の側で CLOSING 状態が

保持されます。多くのソケットをCLOSING状態にすると、エンドホストのパフォーマンスが低下する可能性があります。たとえば、一部の WinSock メインフレーム クライアントはこの動作を示し、メインフレーム サーバーのパフォーマンスを低下させることが知られています。**sysopt connection timewait** コマンドを使用すると、同時クローズダウンシーケンスが完了するためのウィンドウが作成されます。

例

次に、timewait 機能をイネーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt connection timewait
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。
sysopt connection permit-ipsec	ACL でインターフェイスをチェックせずに IPsec トンネルからのすべてのパケットを許可します。
sysopt connection tcpmss	TCP セグメントの最大サイズを上書きします。または、確実に最大サイズが指定したサイズよりも小さくならないようにします。

sysopt noproxyarp

インターフェイスで NAT グローバルアドレスまたは VPN クライアントアドレスに対するプロキシ ARP をディセーブルにするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt noproxyarp** コマンドを使用します。プロキシ ARP を再度イネーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt noproxyarp interface_name
no sysopt noproxyarp interface_name

構文の説明

interface_name プロキシ ARP をディセーブルにするインターフェイス名。

コマンドデフォルト

プロキシ ARP は、デフォルトでイネーブルに設定されています。

コマンドモード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容

8.0(3) このコマンドは、VPN クライアントアドレスが内部ネットワークと重複するときに、VPN プロキシ ARP に影響を及ぼすように拡張されました。

使用上のガイドライン

既存のネットワークと重なる VPN クライアントアドレスプールがある場合、ASA は、デフォルトにより、すべてのインターフェイス上でプロキシ ARP を送信します。同じレイヤ 2 ドメイン上にもう 1 つインターフェイスがあると、そのインターフェイスは ARP 要求を検出し、自分の MAC アドレスで応答します。その結果、内部ホストへの VPN クライアントのリターントラフィックは、その誤ったインターフェイスに送信され、破棄されます。この場合、プロキシ ARP が不要なインターフェイスに対して **sysopt noproxyarp** コマンドを入力する必要があります。

まれに、NAT グローバルアドレスに対してプロキシ ARP をディセーブルにする場合があります。

あるホストから同じイーサネット ネットワーク上の別のデバイスに IP トラフィックを送信する場合、そのホストは送信先のデバイスの MAC アドレスを知る必要があります。ARP は、IP

アドレスを MAC アドレスに解決するレイヤ 2 プロトコルです。ホストは IP アドレスの所有者を尋ねる ARP 要求を送信します。その IP アドレスを所有するデバイスは、自分が所有者であることを自分の MAC アドレスで返答します。

プロキシ ARP は、デバイスが IP アドレスを所有していなくても、その固有の MAC アドレスで ARP 要求に応答する場合に使用します。NAT を設定し、ASA のインターフェイスと同じネットワーク上にあるグローバルアドレスを指定すると、ASA によってプロキシ ARP が使用されます。トラフィックがホストにアクセスできる唯一の方法は、ASA でプロキシ ARP が使用されている場合、ASA の MAC アドレスが宛先グローバルアドレスに割り当てられていると主張することです。

例

次に、内部インターフェイスでプロキシ ARP をディセーブルにする例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt noproxyarp inside
```

関連コマンド

コマンド	説明
alias	外部アドレスを変換し、変換に合わせて DNS レコードを変更します。
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。
sysopt nodnsalias	alias コマンドを使用するときに、DNS A レコードアドレスの変更をディセーブルにします。

sysopt radius ignore-secret

RADIUS アカウンティング応答内の認証キーを無視するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt radius ignore-secret** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。一部の RADIUS サーバーとの互換性のために、このキーを無視する必要がある場合があります。

sysopt radius ignore-secret
no sysopt radius ignore-secret

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能はデフォルトで無効に設定されています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

一部の RADIUS サーバーでは、アカウンティング確認応答内のオーセンティケーター ハッシュにこのキーが含まれていません。この使用上の注意により、ASA でアカウンティング要求を継続的に再送信する場合があります。**sysopt radius ignore-secret** コマンドを使用して、これらの確認応答内のキーを無視し、再送信の問題を回避します（ここで示すキーは、**aaa-server host** コマンドで設定するものと同じです）。

例

次に、アカウンティング応答内の認証キーを無視する例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt radius ignore-secret
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaa-server host	AAA サーバーを指定します。

コマンド	説明
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。

sysopt traffic detailed-statistics

変更されたトラフィック システム オプションについて秒単位でプロトコルごとの詳細な統計情報を計算するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sysopt traffic detailed-statistics** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

sysopt traffic detailed-statistics
no sysopt traffic detailed-statistics

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

この機能はデフォルトで無効に設定されています。

コマンド モード

次の表に、コマンドを入力できるモードを示します。

コマンドモード	ファイアウォールモード		セキュリティコンテキスト		
	ルーテッド	トランスペアレント	シングル	マルチ	
				コンテキスト	システム
グローバル コンフィギュレーション	• 対応	• 対応	• 対応	• 対応	—

コマンド履歴

リリース 変更内容
 ス

7.0(1) このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

sysopt traffic detailed-statistics コマンドを使用して、変更されたトラフィック システム オプションについて秒単位でプロトコルごとに詳細な統計情報を計算できます。

例

次に、変更されたトラフィック システム オプションの詳細な統計情報を表示する例を示します。

```
ciscoasa(config)# sysopt traffic detailed-statistics
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear configure sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションをクリアします。
show running-config sysopt	sysopt コマンド コンフィギュレーションを表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。